自壓馬烏雙

暖かくて気持ちがいい季節になりました。思わずペダル を漕ぎ出したくなるような、自転車の本の特集です。

※こちらで紹介した資料は、今号配布期間中 「ぷらっつ☆篠崎コーナー」に展示しています。



東京周辺 自転車散步

『東京周辺 自転車散歩』

和田 義弥ほか著 山と溪谷社 篠崎ほか所蔵

東京の都心から、郊外までバラエ ティに富んだ28の自転車コースを ご案内。コースの距離、所要時間 はもちろん、難易度、高低差やコー ス上にある名所が写真付きで紹介 されています。自転車で東京を散 歩して、いつもとは違う景色を見て みませんか。



『発明の歴史 白転車』

佐野 裕二著 発明協会 536サ 篠崎所蔵

初期の自転車にはペダルがなかっ たことをご存知ですか? 左右非 対称な三輪自転車がかって流行し ていたことは? 現在馴染みの便 利な自転車が完成するまでに登場 したへんてこな形の自転車や、発 明家たちを魅力たっぷりに紹介し



『ごめんじゃすまな い!自転車の事故』

岡田 正樹ほか著 芸文社 681才 篠崎ほか所蔵

自転車を運転する時やってはいけ ないのは? ①傘をさして乗る、② イヤホンをして乗る、③スマホを見 ながら乗る――実は全て違反行為。 この本は自転車事故の怖さを事例 とともに紹介、加害者にも被害者に もならないための知識を易しく解説 してくれます。



『ジロ・デ・イタリア 薔薇色の輪舞 (ロンド)』

砂田 弓弦撮影•執筆 八重洲出版 786ス

篠崎所蔵

世界三大自転車レースのひとつ 「ジロ・デ・イタリア」の魅力がたっぷ り詰まった写真集。疾走する選手 達、美しいイタリアの風景、歓喜の ゴールシーンはもちろん、「パンツ の中に蜂が入り、大騒ぎするパオ ロ・ベッティーニ」なんていうお茶目 な写真も。



「自転車日記」 (『生の深みを覗く』所収)

夏目 漱石著 岩波書店 B908セ 篠崎ほか所蔵

漱石がロンドン留学中に、下宿の お婆さんにすすめられて自転車の 稽古をする模様を描いたエッセイ。 不慣れな自転車で何度も倒れ、住 民に嘲笑されながらも頑張る姿に、 文豪も同じ人間なんだなと親近感 が湧きました。漱石が遠い異国の 地で自転車に奮闘する姿をお楽し み下さい。



『サクリファイス』

近藤 史恵著 新潮社 FI 篠崎ほか所蔵

自転車ロードレースは、実力ととも に駆け引きの上手さで勝負が決ま り、落車する危険と隣り合わせでも ある。日本の実業団で走る白石誓 は様々な思惑が絡み合う中レース に臨んでいたが、ついに悲劇が起 こってしまう。単なる事故ではない のか? その結末や如何に……。



「しんちゃんの 自転車」 (『短編工場』〈集英社 文庫編集部編〉所収)

荻原 浩著 集英社文庫 BFタ 篠崎ほか所蔵

主人公の私を、真夜中に自転車に 乗って迎えに来るしんちゃん。私は しんちゃんの自転車の後ろに乗っ ておたま池の中州にある、行方不 明になった神主がいるという古びた ほこらを目指します。ある秘密を抱 えたまま冒険する二人の姿に、切 なくも心が温かくなりました。





森 絵都著 理論計 (絶版 ※現在は講談社 にて刊行) FŦ

篠崎ほか所蔵

13歳で家族と死別した環。その後 一緒に暮らした叔母も失い、死の 境界線が薄らいでいく。ある日、も らった自転車に跨り、どこまでもどこ までも走っていくと家族のいる異世 界に辿り着いた。環は自転車に導 かれ、翻弄され、生きる強さを学ん でいく。



『ヒューマン・ コメディ』

サローヤン著 小川 敏子訳 光文社古典新訳文庫 B933サ

篠崎ほか所蔵

家計を助けるために電報配達をす る少年ホーマー。年老いた電報技 師、貧しいアルメニア移民の家族 ……。彼の目を通して、ひとりひとり の物語が明らかになっていく。少年 たちの健気さに胸うたれ、彼らの幸 福を願わずにいられない。



『奇跡の自転車』

ロン・マクラーティ著 森田 義信訳 新潮社 933マ 篠崎ほか所蔵

体重126キロ、43歳のスミシー・アイ ド。事故で両親を亡くし悲しみの底 で彼が遺品の中に見つけたのは、 行方知れずの姉の死亡通知。そし て実家のガレージに、少年時代の 愛車・ラレー。多くを後悔し立ち止 まった心のまま、姉の眠る町を目指 す彼を、苦しくも愛に満ちた旅が 待っていた。

-2--3-